

118期 株主通信

証券コード:6762

TDK Today

Vol.52

2013年4月1日 →
2013年9月30日

特集

ようこそ、TDKワールドへ!

アジア最大級の最先端IT・
エレクトロニクス総合展

シーテックジャパン
「CEATEC JAPAN 2013」に出展

TDK in
CEATEC JAPAN
2013

AUTOMOTIVE®

DATA CENTERS

SMART GRID

SMARTPHONES



株主の皆様へ

新たな成長ステージへの 基盤を確立し、成長戦略を 加速してまいります。



代表取締役社長

上 釜 健 元

2014年3月期上半期の業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申しあげます。

2013年9月30日に終了しました2014年3月期上半期(2013
年4月1日から9月30日までの6ヶ月間)の連結業績につい
てご報告申しあげます。

2014年3月期 上半期連結業績概要

売 上 高	4,847億円 (前年同期比 17.6%増)
営 業 利 益	168億円 (同 17.4%減)
当期純利益	64億円 (同 34.1%減)

当社グループが製造・販売する電子部品は、様々なエレクトロニクス製品に組み込まれており、当社グループの連結業績は、それら製品の需要動向に大きく影響を受けます。当上半期における主要なエレクトロニクス製品の市場動向は、次の通りでした。

- ・需要が拡大しているスマートフォンの生産は、大手メーカーより新型端末が発売されたこと等に牽引され、前年同期の生産水準を大幅に上回りました。
- ・スマートフォンと同様に需要が拡大しているタブレット端末の生産も、前年同期の水準を大幅に上回っております。
- ・自動車市場全体の生産も、米国での自動車販売が底堅かったこと等により、引き続き堅調に推移し、前年同期に比べ増加しました。
- ・パソコンの生産は前年同期の水準を下回るとともに、ハードディスクドライブ(HDD)の生産も、需要変動の要因に加え、タイの大規模洪水の影響で一時的な特需があった前年同期より大幅に減少しております。

<2014年3月期 上半期決算のポイント>

● 受動部品事業

- 売上 2,364億円(前年同期比 29.8%増)、営業利益 90億円
(前年同期は54億円の営業損失)

セラミックコンデンサの黒字化、高周波部品の9月単月黒字化、

スマートフォンカメラ向け圧電材料部品の販売拡大が、売上・営業利益増に貢献しました。

● 磁気応用製品事業

- 売上 1,791億円(前年同期比 4.3%増)、営業利益 124億円
(同 55.2%減)

記録デバイス(HDD用ヘッド)は、出荷数量は前年同期より減少したもの、想定内の営業利益を確保しました。マグネットの営業利益は、タイ洪水関連の保険金収入のあった前年同期より減少しました。

● フィルム応用製品事業

- 売上 601億円(前年同期比 26.9%増)、営業利益 51億円
(同 27.4%減)

エナジーデバイス(二次電池)の販売は引き続きスマートフォン、タブレット端末向けに堅調に推移しました。二次電池の顧客基盤の拡大と事業領域拡大のための研究開発を促進しました。

為替変動の影響は、前年同期に比べ対米ドルレートで24.4%、
対ユーロレートで29.1%のそれぞれ円安となり、売上高で約
830億円の増収、営業利益で約130億円の増益となりました。

構造改革について

当社グループでは、13年3月期に受動部品を中心とした構造改革に区切りをつけ、14年3月期においては、主に事業ポートフォリオ適正化の推進等に取り組んでおります。

具体的には、非中核事業であったデータープ事業及びブルーレイ事業の撤退を進め、いずれも下期中に完了予定です。なお、
上期の構造改革に伴う費用は約37億円です。

下期以降の事業戦略と今後の展望

当社を取り巻く経営環境は、世界景気が回復傾向にあるものの、エレクトロニクス市場における競争環境は厳しさを増しています。このような経営環境の中、当社グループは、新たな成長

ステージへの基盤を確立し、成長戦略を加速していきます。
事業分野別の戦略は、次の通りです。

●受動部品事業

成長戦略の中核と位置づけ、さらなる収益性改善に取り組み、収益の柱へと再生していきます。
セラミックコンデンサについては引き続き自動車市場向け製品を強化し、インダクティブデバイスについては薄膜／巻線／積層工法のフルラインアップで顧客要求に柔軟に対応していきます。高周波部品については、堅調な販売のSAWデバイス（個品）は増産でさらなる拡大を目指し、モジュール品は設計段階での営業活動を継続、さらにICメーカー向け承認活動を強化していきます。
圧電材料部品（VCM、OIS）については、中国スマートフォンメーカー向けが堅調であり、今後採用が期待されるOISの着実な受注確保に取り組みます。
なお、生産性の改善にも引き続き取り組み、セラミックコンデンサの生産ラインの最適化を促進するとともに、高周波部品の生産プロセスの改善を継続し、収益性を高めていきます。

●磁気応用製品事業

当社グループが唯一のヘッド専業メーカーであるというポジションを活かし、安定収益事業へと展開していきます。
HDD市場は2013年3月期の約5.7億台から2014年3月期は約5.4億台へとやや減少する見通しです（いずれも当社推定）。また、今後2、3年、HDD数量は横ばいと見込んでいますが、市場内のアプリケーションが変化し、パソコン市場は縮小するものの、データセンター市場はクラウドコンピューティングの普及を背景に拡大すると見られます。データセンター市場で使用されるHDDは、HDD用ヘッドの使用本数が多いため、全体としては、HDD1台当たりのヘッド使用本数は今後拡大していくと考えていることから、その需要を取り込んでいきます。
その他磁気応用製品については、産業機器向け市況の回復遅れ等の影響が残るもの、レアアースフリー磁石の拡販

や生産性改善による収益性の向上に取り組んでいきます。

●フィルム応用製品事業

需要拡大、事業領域拡大により次なる成長ステージへと移行させます。二次電池は今後大きな伸びが期待されています。特にリチウムポリマー電池は出荷数量で年率2桁以上の成長が見込まれ、民生用におけるモバイル/IT端末向けの比率が急速に拡大すると考えられます。当社グループでは、環境対応自動車向け電池、蓄電用電池と、事業領域も拡大していきます。

<業績と配当の見通しについて>

配当金は期初公表値（4月26日）から変更なく1株当たり70円（中間30円、期末40円）を予定しております。

2014年3月期の連結業績及び1株当たり配当金の見通し

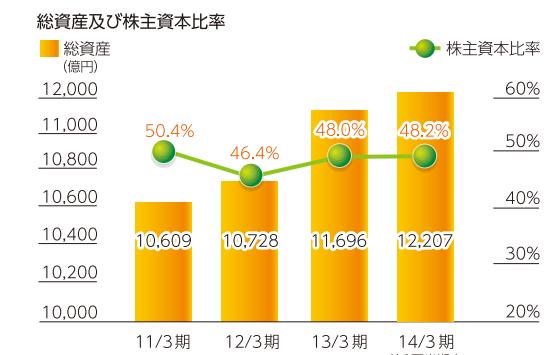
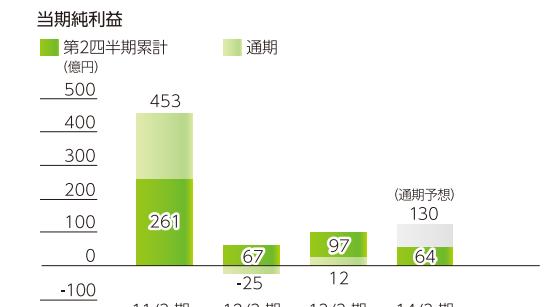
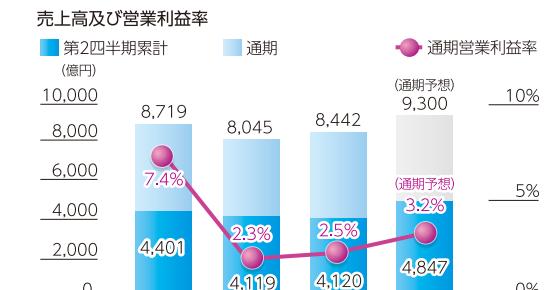
※第3四半期以降の平均為替レートは対米ドル90円、対ユーロ118円を想定（2013年10月31日時点）

売 上 高	9,300億円（前期比 10.2%増）
営 業 利 益	300億円（同 38.4%増）
当期純利益	130億円（同 987.9%増）
中 間 配 当	30円
期 末 配 当	（見通し）40円
年 間 配 当	（見通し）70円

最後に、当社が過去に製造・販売した加湿器が火元とされる、本年2月に発生した火災事故に関しましては、全社をあげて当該リコール製品の回収と告知活動に取り組んでおります。当社は今後もこの事態を真摯に受け止め、回収活動を継続して実施してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

代表取締役社長 上釜 健宏



（予想：2013年10月31日発表）

市場分野別売上の状況 (2014年3月期上半期)

主な製品



HDD用磁気ヘッド



セラミックコンデンサ



アルミニウム電解コンデンサ



電源

世界の情報家電及び記録デバイス分野においては、パソコンの生産が前年同期の水準を下回り、HDDの生産は減少しましたが、タブレット端末は大幅に増加しました。

当社グループの販売は、高周波部品が増加しました。また、HDD用ヘッドとサスペンションは数量は減少したものの、米ドルに対して円安が進んだことにより増収となりました。

世界の産業機器市場は依然厳しい状況が続いており、当社グループの販売は、マグネットが価格下落の影響もあり減少しました。しかしながら、アルミニウム電解コンデンサ及びフィルムコンデンサは増加し、電源も若干ではありますが増加しました。

情報家電及び記録デバイス分野

2,107億円

43.5%

対前年同期比
8.6%up ↑

産業機器及びその他分野

962億円

19.8%

対前年同期比
12.5%up ↑

市場分野別売上高と構成比

4,847億円

自動車分野

811億円

16.7%

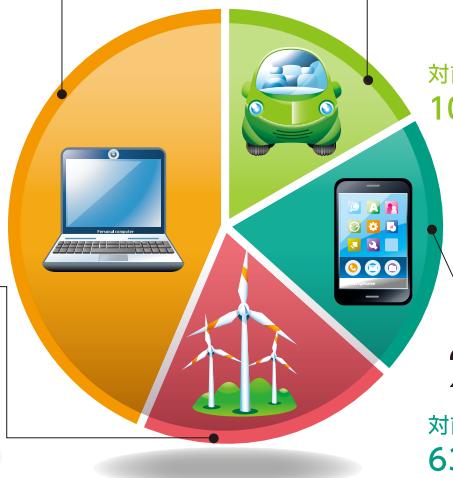
対前年同期比
10.9%up ↑

通信機器分野

968億円

20.0%

対前年同期比
63.0%up ↑



主な製品



インダクティブデバイス



モーター用マグネット



リチウムイオンポリマー電池



SAWフィルタ/
高周波モジュール

米国での自動車販売が底堅かったこと等により、世界の自動車の生産は増加しました。

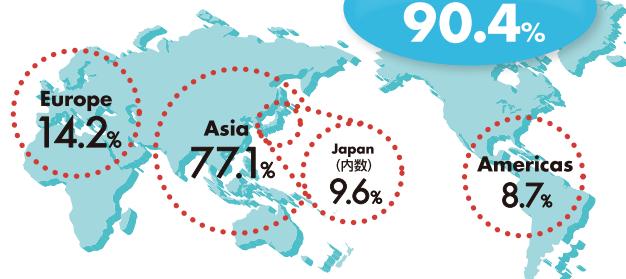
当社グループの販売は、セラミックコンデンサ、アルミニウム電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、インダクティブデバイス及びセンサが増加し、また電源も若干増加しました。

世界の通信機器分野では、スマートフォンの生産が、前年同期の水準を大幅に上回りました。

当社グループの販売は、インダクティブデバイス、高周波部品が増加しました。また、圧電材料部品・回路保護部品、エナジーデバイス(二次電池)も大幅に増加しました。

地域別売上構成

海外売上比率
90.4%



当社グループはグローバルに事業を展開しており、海外売上比率は90%を超えていました。また、地域別では、日本を含めたアジア地域が77.1%と、最も大きな割合を占めています。

期待の新製品

2013年7月から量産化

モバイル機器向け電源回路用 世界最小*の積層パワーインダクタ

従来製品に比べて60%の小型化。
バッテリの持続性向上と電源回路の省スペース化に貢献。

近年のモバイル機器は、大容量高速通信などの連続使用や多機能化により、消費電力が拡大し、また、パワーインダクタの搭載個数が増加しています。このため、バッテリの持続性向上と電源回路の省スペース化が求められています。こうした需要に応え、TDKでは、世界最小サイズの積層パワーインダクタを開発。従来製品対比で60%もの小型化を実現しました。本製品は電源効率向上にも貢献しています。

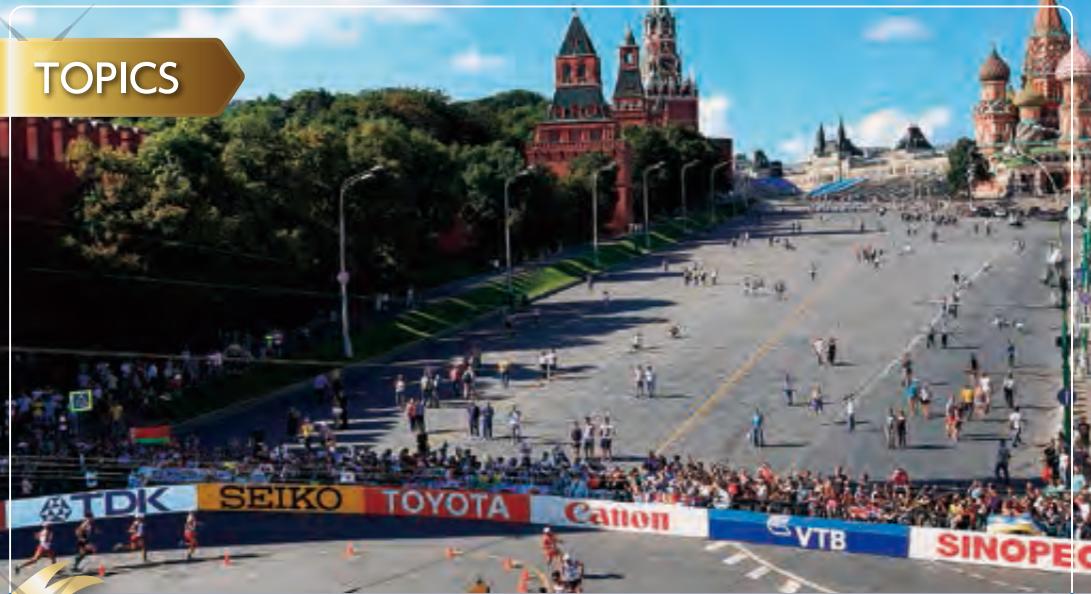
*2013年7月現在、TDK調べ

世界最小サイズ
1.0×0.5×0.7(mm)



【主な用途】

- スマートフォン、
タブレット端末、
デジタルカメラなど
- 電源モジュールなど



第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ)に協賛 —世界のアスリートたちを30年にわたって応援!—

世界陸上競技選手権大会(世界陸上大会)は、オリンピック、サッカーワールドカップと並ぶ3大スポーツイベントの一つです。TDKは、1983年、第1回ヘルシンキ大会から30年にわたりメインスポンサー(男子ゼッケンスポンサー)として協賛して来ました。第14回となる今年の大会は、8月10日から18日まで9日間、世界陸上大会としては初めてロシア(モスクワ)で開催されました。

世界212の国と地域から約3,200人の選手・役員が参加して開催された、今年の「世界陸上大会(2013/モスクワ)」。競技の模様は、190ヶ国以上の国と地域で放映され、延べ65億人もの人々が楽しみました。特に、地元ロシアの選手たちの予想以上の活躍に観衆は会場で何度も「ウェーブ」を繰り返し、歓声をあげて応援。女子4x400mリレーの金メダルや、女子棒高飛びE.イシンバエワ選手の貴重の金メダル等の好結果は、こうした熱気がもたらしたものでしょう。TDKのコーポレートマーク(ロゴ)は、100mスタートボードの特大看板、スタジアムの主要なサインボード、男子ゼッケンに採用され、世界中の多くの人々の目にすることとなりました。



次回の世界陸上大会は、2015年中国・北京大会です。中国は、当社グループにとって多くのお客様やグループ拠点を有する等、つながりの特に深い国のです。当社は今後も世界陸上大会の一流アスリートたちが繰り広げる熱い戦いと感動を支援してまいります。

このコーナーでは、海外のグループ企業と、その国にある世界遺産をシリーズで紹介します。
第4回目の今回は、南米の大國、ブラジルです。

世界 & 遺産

GLOBAL TDK



イグアス国立公園 ～大地を切り裂くように落ちるイグアスの滝～

ブラジルとアルゼンチンにまたがり、パラグアイとも接している広大な自然公園がイグアス国立公園です。「イグアス」とは原住民の言葉で「大きい水」のこと。その言葉からうかがえるように、この公園の最大の見所は、およそ5キロにわたって大小300近くもの滝が集まつた「イグアスの滝」です。北米のナイアガラの滝、アフリカのビクトリアの滝と並ぶ世界三大瀑布(滝)の一つとして知られていますが、ダイナミックさという点では他の追随を許しません。轟音を上げながら大地を切り裂くように水がなだれ落ちる様は、圧巻の一言。“滝”という言葉のイメージそのものが変わってしまうような迫力を持っています。もちろん見所は滝だけではありません。公園一帯は多様な動植物が暮らす亜熱帯林で、中には絶滅危惧種に指定されている動物も。色とりどりの蝶が生息することでも有名です。

ブラジルのグループ企業ご紹介

2014年にFIFAワールドカップ、2016年にリオデジャネイロ・オリンピックを控え、大きな経済成長が見込まれるブラジル。2億人の市場と広大な国土を有するここブラジルでは、主にアルミニ電解コンデンサとフィルムコンデンサを生産するEPCOS do Brasil、販売を行うTDK do Brasil Ind. e Com.、物流を担うTDK da Amazonia Importacaoe comercioの子会社3社・5拠点で、自動車や産業機器、再生可能エネルギー向けの市場の開拓に取り組んでいます。



▲コンデンサを生産している
EPCOS do Brasilの工場

ようこそ、TDKワールドへ!

14万人を超える来場者!

シーテックジャパン

「CEATEC JAPAN 2013」に出展

エネルギー関連市場ゾーン

雨中でも暗闇でも、駐車するだけで、らくらく充電

ワイヤレス給電用コイルシステム(開発中)



駐車場に停めるだけで、充電プラグをすることなくプラグインハイブリッドカーやバッテリ式電気自動車の充電がはじまるワイヤレス給電テクノロジー。屋外の駐車場、雨の中、そして暗闇でも、安全な充電が可能になります。

TDKでは高性能フェライトPC95を給電/受電コイルに使用した高効率なワイヤレス給電コイルシステムを開発中。すでに車載側の受電コイルはA4サイズまで小型化を実現しています。

次世代自動車のさらなる小型・軽量・高効率化に貢献

車載用DC-DCコンバータ

ハイブリッドカーや電気自動車等の低公害車に使用されるメインバッテリの高電圧(100~400V)を、低電圧(12V等)に変換して補機用バッテリを充電し、ヘッドライト、ワイパー、パワーウィンドウ等の車載電装機器に電力供給するDC-DCコンバータです。TDKでは、15年前の第1世代の開発からスタートし、今回はさらなる小型・軽量・高効率化を実現した第5世代を紹介しました。今後も自動車の進化を電子部品サイドからサポートし続けます。

エネルギーを無駄なく利用するスマートな電源

双方向DC-DCコンバータ

太陽光や風力の再生可能エネルギーによる発電電力を蓄電システムに蓄えたり、また逆に蓄えた電力を家庭内の電力として使うためのDC-DCコンバータ。

TDKでは、デジタル制御の先進技術により、充電・放電とも94%の高効率変換を達成しました。蓄電システムの充電・放電管理ばかりでなく、クレーンやエレベーター等の産業機器のエネルギー回生にも利用が期待されています。

パワーエレクトロニクスを発展させる高信頼性部品

フィルムコンデンサ

パワーエレクトロニクス機器等では、大容量ながら有効寿命のあるアルミ電解コンデンサにかわって、長寿命で信頼性にすぐれるフィルムコンデンサが使われるようになっています。

TDKでは、太陽光発電システムのパワーコンディショナ用、ハイブリッドカーの車載インバータ用、また産業機器の各種電力コンバータ用等、エネルギー関連市場向けパワーフィルムコンデンサを幅広くラインアップしています。



シア・テック・ジャパン
アジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展「CEATEC JAPAN 2013」が、10月1日から10月5日まで幕張メッセ(千葉県)で開催され、14万人を超える来場者で賑わいました。今回のTDKの展示ブースでは、これから大きく成長が見込まれる「エネルギー関連市場」と「次世代情報通信市場」に分けて新製品と技術を展示とデモンストレーションで紹介しました。開催期間中には多くの皆様にご来場いただき、TDKの先進の取り組みをご紹介することができました。今号では、ご来場の皆様の注目を集めた主な製品を特集いたします。



来場者で賑わうTDKブース

次世代情報通信市場ゾーン



磁気と熱とのコンビにより世界最高クラスの高記録密度を達成

HDD(ハードディスクドライブ)用熱アシスト記録ヘッド

データセンターの主要なデータストレージとして使われるHDDには、さらなる小型化・大容量化が求められています。TDKでは磁気とレーザスポットによる熱とのコンビネーションで、データを高密度に記録する独自のHDD用熱アシスト記録ヘッド(TAMRヘッド)の開発を進めています。この先進のHDD用ヘッドは世界最高クラスの1平方インチあたり、1.5Tb(テラビット)という高記録密度を達成。これは2.5インチディスク1枚(両面)で、新聞データ854年分を記録できる容量です。この先進の技術で、CEATECアワードのキーテクノロジ部門グランプリを受賞しました。

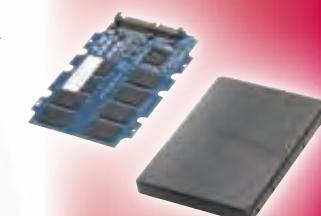
CEATEC AWARD 2013
キーテクノロジ部門
グランプリ受賞!



クラウドコンピューティングを支えるストレージデバイス

高信頼性エンタープライズSSD

SSD(ソリッドステートドライブ)は、フラッシュメモリを用いたストレージデバイス。高速起動性、低消費電力、耐振動性、耐衝撃性にすぐれ、産業機器やIT機器、ネットワークインフラ等に多用されています。TDKでは、自社開発のNAND型フラッシュメモリコントローラICを搭載した高信頼性のSSDを各種ラインアップ。データが大量に集積され、かつ書き換え頻度の高いデータサーバ等、クラウドコンピューティングを支えるストレージシステムの構築にHDDと共に貢献しています。



モバイル機器の電源回路に最適な新製品

スマートフォン用電源系インダクタ

スマートフォンをはじめとするモバイル機器の高機能化・多機能化に伴い、電源回路には、より小型・高効率、かつ定格電流の大きいインダクタが求められています。

TDKでは、磁性体に金属材料を用いることで、小型でありながら大電流化と低直流抵抗による高効率化を図った製品を新開発。また、シンプルな製品構造の追求により、高品質・高生産性もあわせて実現した、スマートフォンの電池の長持ちに貢献する新製品です。



スマートフォンのカメラ機能が一段と向上

カメラモジュール用レンズアクチュエータ

スマートフォンのカメラ機能には、オートフォーカスのスピードの高速化と画質の高品位化が求められています。TDKではこれらの要求に応えて、オートフォーカスの高速化に向けたクローズドループ・ボイスコイル・アクチュエータ(CL-VCA)と、高品位化に向けた手振れ補正アクチュエータであるオプティカルイメージ・スタビライザ(OIS)を開発しました。これにより鮮明な動画や暗所でも手振れのない画像が得られます。



■ 株主メモ

● 株式に関するお問合せ先

証券会社等にて株式をお持ちの場合

○ 配当金の受取方法の指定、変更	お取引のある証券会社等
○ 単元未満株式の買取・買増請求	
○ 住所変更、名義変更等	
未払配当金の照会、支払い	下記の株主名簿管理人

特別口座にて株式をお持ちの場合

各種お手続き等	下記の特別口座管理機関
---------	-------------

* 特別口座の方は、証券会社等に一般口座を開設し、株式を振替えることをお勧めします。
(特別口座とは、2008年12月末までにほふり(証券保管振替機構)に株券をお預けにならなかった株主様の株式を、当社がお預かりし一旦管理させていただいている口座のことです)

株主名簿管理人及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先及び電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

〈お知らせコーナー〉

○ 配当金の受取方法について：

配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします！

○ 単元未満株式の買取・買増請求について：

単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料を2012年4月1日から無料とさせていただいておりますので、是非ご活用ください！

(但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご留意ください)

○ 今回お送りした「配当金計算書」について：

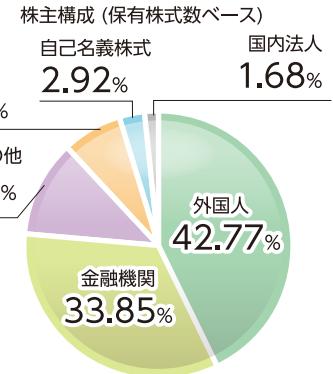
毎年の確定申告を行う際、添付書類としてご使用いただくことができますので、大切に保管ください！

● 株式の状況

基本情報 (2013年9月30日現在)

上場証券取引所	東京(証券コード:6762)
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末:毎年3月31日、中間:毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日(そのほか臨時に必要があるときはあらかじめ公告いたします)
定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告(当社のホームページ http://www.tdk.co.jp/ に掲載いたします)
1単元の株式数	100株

株主の状況 (2013年9月30日現在) 株主数 31,657名



● IR年間スケジュール 当社のIRの年間スケジュール(概略)は以下のとおりとなっております。



当社ホームページのご紹介

<http://www.tdk.co.jp/ir/>

当社のホームページでは、個人株主・投資家の皆様へさまざまな情報を分かりやすく紹介しております。どうぞご覧ください。

個人投資家の皆さまへ



TDK 個人投資家

検索 クリック!

IRトピックス

MEMBER OF
Dow Jones Sustainability Indices
In Collaboration with RobecoSAM

当社は、世界的に権威のある社会的責任投資(SRI)の指標である、「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジア・パシフィック・インデックス(DJSI Asia Pacific)」に、今年も選定されました。

DJSIとは、経済・環境・社会の3つの側面から、世界各国の大手企業の持続可能性(サステナビリティ)を評価し、総合的に優れた企業を選定する指標です。

【編集後記】いつも株主通信「TDK Today」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございます。今回は特集に「CEATEC JAPAN 2013に出展」を取り上げてみましたが、いかがでしたでしょうか。今後とも株主の皆様に楽しみにしていただけるような誌面作りを目指してまいります。今後ともよろしくお願い申しあげます。末筆ながら、新しい年が株主の皆様にとりまして良いお年となりますよう、お祈りしております。



この冊子は植物油インクを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



TDK株式会社

〒108-0023

東京都港区芝浦三丁目9番1号

<http://www.tdk.co.jp/>

※2013年4月1日付で、本社を
左記の住所に移転いたしました。